

出産直後のカンガルーケア・完全母乳等により脳障害を受けた新生児を抱える「患者・家族の会」の発足と決意表明

1、私達は、本日、午後1時より、福岡市内において、「出産直後の、カンガルーケア・完全母乳等のため脳障害を受けた新生児を抱える『患者・家族の会』」を結成致しました。

2、現在、厚生労働省が推奨し、全国の国立病院等々で「赤ちゃんに優しい病院」を標榜しながら、実施されている出産直後のカンガルーケア(母子早期皮膚接触)、そして母子同室、完全母乳育児の促進により、全国各地で、正常に出産した新生児が十数時間以内に低体温症、低酸素血症、低血糖症などの極めて危険な状態に陥らせ、ついには脳障害に至る事例が頻発しています。

本日、「患者・家族の会」発会式に参加した患者家族は、長崎県（1例）、福岡県（2例）、宮崎県（1例）、大阪府（1例）、愛媛県（1例）6家族に及び、別途名古屋大学医学部附属病院においても同様の事例が発生しています。

3、これらの事例に共通していることは、いずれも、正常に出産した新生児を出産直後からカンガルーケアを実施したり、あるいは、母乳以外の栄養物を与えない完全母乳育児を推進していたため、室温の低い病室で、低体温に陥った新生児が低酸素・低血糖症状に陥り、脳に酸素が供給されなくなり、ついには、低酸素性脳障害に至り、重篤な障害児となり、家族にとって悲しい現実がもたらされています。これらの事実に対して、病院側は、乳幼児突然死症候群（SIDS）と説明したり、原因不明と主張して、責任を回避したりしています。

4、また、出産直後の新生児を看護、管理する主体はどの病院においても、助産師が中心となっています。

しかし、助産師が所属する日本助産師協会は、強力な完全母乳育児促進運動を展開し、出産直後の母体は、母乳が出始めるのに1日～3日間かかることを承知しながら、新生児に母乳以外の補助栄養食品(例えば、糖水や、人工乳)を与えない、所謂完全母乳育児を勧めています。助産師達は、赤ちゃんは「3日分の水筒と弁当をもって生まれてくる」などという科学的根拠のない俗説を信じて、出産直後の新生児

の体温管理を怠り、栄養補給に配慮することなく、カンガルーケア・完全母乳、母子同室を進めています。その背景として、安全性の配慮に欠けた「授乳と離乳の支援ガイド」を公表している厚生労働省の姿勢にも問題があります。

5、以上の背景の下では、全国各地に新生児の脳障害について原因不明として泣き寝入りしている患者家族が多数存在すると思われま

す。そこで、私達は、本日、「患者・家族の会」を設立させ、全国で、同様の被害に悩む人達への啓発活動を展開し、「赤ちゃんに優しい病院」を標榜する全国の病院及び厚生労働省に対し、出産直後のカンガルーケア及び完全母乳育児のあり方について、改善を求める活動を続けていく所存です。

以上のとおり決意を表明致します。

平成23年11月26日

出産直後のカンガルーケア・完全母乳等により脳障害を受けた新生児を抱える「患者・家族の会」

事務局所在地

〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名2丁目4番19号

福岡赤坂ビル701号 羽田野総合法律事務所気付

TEL092-715-5251

FAX092-715-2452

hatano@h5.dion.ne.jp

世話人 弁護団

弁護士 石井精二 同 今井一成 (長崎県弁護士会)

弁護士 日野佳弘 同 朝見行弘 同 江藤靖典 同 米倉智昭  
(福岡県弁護士会筑後部会)

弁護士 佐々木育子 (奈良弁護士会)

弁護士 佐藤清志 (愛媛弁護士会)

弁護士 (事務局) 羽田野節夫 同 山西信裕 同 橘友一

同 諫山佳恵 同 羽田野桜子

(福岡県弁護士会)